



上) 大好評の亜麻そばや新そば
下) 手打ちそば職人の実演



亜麻の花

地域と歩む 商店街

五叉路をつなぐ亜麻

かつて亜麻工場が操業していた歴史を将来に伝えたいという住民の願いが実り、昭和34年に麻生という町名が誕生しました。この地域に昭和48年に設立された麻生商店街振興組合は、その後進出した大型店舗との共存共栄を図りながら、麻生のまちづくりに積極的に関わってきました。中でも亜麻栽培や亜麻和紙作りなど、地域のシンボルである亜麻に関連する取り組みに力を注いでいます。

商店街では、そばを食べながら健康と敬老をテーマに語るひとときが、そこに集う人々の明日への活力になるようにと、亜麻の種子をそば粉に加えて作る亜麻そばを主役に「あさぶ亜麻そば祭り」を昨年から開催しています。今年は麻生連合町内会との共催で、9月11日に麻生地区会館で開催しました。当日は、そば約550食を提供したほか、手打ちそば職人の実演や手打ちそば体験教室、亜麻和紙人形の展示、芸能ステージ発表などが行われ大盛況でした。同組合理事長の西田清英さんは



西田清英さん

「そばは庶民的な食べ物。地域のお年寄りの方たちにいつまでも健康でいてほしいという気持ちを込めて亜麻そば祭りを企画しました」と話します。



永倉吉裕さん

また、「コミュニティー紙五叉路」を24年にわたり編集・発行するほか、亜麻によるまちづくりを推進する団体「ふらつくす倶楽部」の代表を務めるなど、多方面に亜麻の魅力を発信しているのは、同組合監事の永倉吉裕さんです。「地域で商売をする私たちも地域を支える仲間の一員であると考えます。一日の大半をこの地域で過ごしているのですから、私たちもまちづくりに参加するのは当然ですよ。この亜麻そば祭りが地域の人たちが集まるきっかけになってほしいですね」と力強く話します。

携帯電話やパソコン、インターネットなどの普及に見られるように、私たちの生活様式は急速に変化し、今では買い物も多様化しています。そのようなか、いつも地域を見つめ、そこに暮らす人たちと一緒にまちづくりに関わっている商店街の取り組みを紹介します。今月は地域を盛り上げる商店街の取り組みを



亜麻の種子